

## コップで飲むことができる

### 場面設定

子どもが簡単に握れる小さなコップを使用します。コップはプラスチックで両方に取手のついているコップがよいでしょう。このプログラムを行う時は子どもは喉が渇いており、指導者も時間にゆとりがあるときに行いましょう。飲み物は特に指定はありませんが、子どもの好きな飲み物を使いましょう。一度に飲ませる飲み物の量は少量にして複数回練習しましょう。テーブルと椅子を用意し、そこへ座らせます。高さは作業がしやすいくらいに調節します。子どもが一つの段階を達成する度に、みんなで喜び、ほめてあげましょう。家庭で行う場合は家族全員で協力しましょう。

### プログラム 1

#### 目標

指導者が誘導すれば、子どもはコップを持って飲むことができる。その後、一人でテーブルまでコップを戻すことができる。このプログラムでは、常に指導者の手を子どもの手に重ねて、一緒に動作します。

#### ステップ 1

テーブルの上にあるコップを、指導者と一緒に、テーブルから子どもの口まで持っていきます。コップが口まできたら、コップを傾けて一口だけ飲ませます。飲み終わったら、指導者と一緒にコップをテーブルに戻します。うまくできたらほめてあげましょう。

#### ステップ 2

指導者は子どもの手を軽く支えながら、コップを子どもの口まで誘導し、子どもはコップから飲んだら（プログラム 1 達成目標）コップをテーブルに置く直前で、ゆっくり指導者の手を離します。うまくできたらほめてあげましょう。

#### ステップ 3

ステップ 2 を何度か繰り返したら、コップからテーブルまでの間で指導者が支えている手を離すタイミングを徐々に早くし、最終的に指導者は子どもが飲み終わると、すぐに介助の手を離すようにし、子ども一人でコップをテーブルまでもっていけるようにします。コップを一人でテーブルに戻すことができるようになったら、プログラム 2 へ進んで下さい。

### プログラム 2

#### 目標

テーブルから口までコップを持っていくことができる。

プログラム 1 より、子どもは一人でコップを使って飲み、その後テーブルにコップを置くまで一人でできています。まずは指導者も一緒にコップを持ち、口に届く直前で手を離すようにします。指導者は子どもが一人でコップから飲み、口から離してコップをテーブルまで持っていくことができたらほめます。プログラム 1 と同じ要領でテーブルにおかれているコップから子どもの口元までの間で指導者の手を離すタイミングをどんどん早めていきます。繰り返す

実行してもうまくできたらほめてあげましょう。

小柳友佳里